

# 要援護世帯への訪問 継続などの項目要請

日本共産党議員団は19日の午後、豪雪対策強化について市当局に申し入れをしました。議員団からは私と樋口議員が参加、16日、18日と現地調査をしてきたことを踏まえ、①障がい者、高齢者など要援護世帯にたいする調査、声掛け、適切な対応を継続して行うこと、②ビニールハウスなど農業関連施設の被害状況を把握し、対策を講じること。また、農畜産物の生産、出荷が困難なときは応援できる体制をつくっておくことなど9項目の要請をしました。市側からは大雪災害警戒対策本部長の稲荷副市長、それに笠原都市整備部長、川上防災局長が応対し、意見交換をしました。

私からは、「要援護世帯の方々には民生委員や市役所職員の訪問をととても喜んでいました。引き続き



【写真上】稲荷副市長との懇談の様。【写真左】吉川区上川谷での訪問。



き頑張つて継続してほしい。冬場でも農業生産活動で頑張っている人たちがいる。和牛飼育農家、ハウスを使った野菜栽培をしている農家を励ましてもらいたい。市民はホームページを通じて道路など生活にかかわる情報を知りたい。災害救助法の適用については4年前と同じく合併前の区域でひとつでも基準を突破したら、全市適用の働きかけを」と訴えました。

稲荷副市長は、「ホームページ（で対策本部設置情報などを掲載しなかったこと）については申し訳なく思っている。いま掲載の作業をしている。（農業生産の実態などの）調査をしておいては私どもも申し入れの内容で働きかけていきたいと考えている。職員も頑張っているのでご協力をいただきたい」と答えました。

## 市民の要望確認のため現地調査

日本共産党議員団は16日、18日と今回のか雪で被害をうけている地域の視察、調査を行いました。

16日は吉川区、大島区、浦川原区の山間部を訪問、道路の除雪状況などの確認をしたほか、高齢者世帯などをまわり、不安や困っていることがないかきいてきました。道路はドカ雪のため、幹線でも狭くなっていました。

## シリーズ 上越市内の橋

### 第23回 棚広橋



「棚広橋」と書いて「たなひろばし」と読みます。牧区の南東部、二級河川飯田川にかかった橋です。写真は上流から見たときのものです。初めて見た時、なぜか懐かしさをおぼえました。おそらく、子どもの頃、いちばん多く見かけた橋の形をしていたからだと思います。橋長は約23メートル。竣工は1966年（昭和41年）です。

一人暮らしをしている人のうち、吉川区上川谷に住むMさんは、「屋根の雪が落ちないんだよね。（つぶれないかと）心配で、心配で……」と切ない様子でした。

18日は、清里区、牧区、合併前上越市農村部を中心に実態調査に出かけました。この日の調査では道路の除雪状況、農業用ビニールハウスの実態、高齢者世帯の屋根雪処理状況などにポイントをしぼって見てきました。道路の除雪はかなり進んでいましたが、あちこちに圧雪があり、予定した和牛農家の訪問はこの日はできずじまいでした。

近年、ハウスでのオータムポエムなどの栽培が増えつつあります。こうした農家ではハウスを守るためにたいへんな苦勞をされていることがわかりました。

市議団では2日間の調査などをもとに市長への要請を行いました。引き続き、調査を継続していく予定です。



NO 1433  
2010.1.24

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪法一  
Tel 548-3628 (有線) 4867  
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp  
URL http://www.hose1.jp/